

## Information

## イベント

# 審判登録Web化のお知らせ

山梨県サッカー協会審判委員会  
委員長 内田 直人

時下ますます御清祥の段、お慶び申し上げます。平素より山梨県サッカー協会審判委員会の事業に対して御協力・御理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、日本サッカー協会の「JFAメンバーシップ制度」の制定をきっかけに、審判登録制度もWebサイトを利用した登録制度へと変更します。本県でも2005年度より、Web登録申請が始まります。更新講習会（義務研修）、審判員資格の新規取得講習会の申し込み、講習会費・登録費の支払い、審判登録情報の変更などはインターネット上（PC及びモバイル）のWeb登録サイト（通称“Kick Off”）で行えるようになります。そこで、以下についてご留意下さい。

◎2005年度登録済みの審判員には、3月末に日本サッカー協会より、審判員証が配布されます。必ず「初回ID/パスワード」を使ってWeb登録サイトにログインし、各自パスワードを取得して審判員情報の確認を行って下さい。

◎新規4級取得希望者についてはWeb登録サイトの「サッカー審判員」をクリックし、取得講習会の申し込みや審判員情報の入力等を行って下さい。

Web化に伴い、審判員資格の新規取得や更新手続きにつきましてはすべて個人で行うようになります。

入力方法に関する詳しい説明は、Web登録サイト内に記載されています。

更新・新規取得手続きにつきましては別紙「2005年度審判向けWeb登録申請ガイド」や山梨県サッカー協会のホームページ（<http://www.yamanashi.football.ne.jp/>）の審判サイトを参考にして下さい。

尚、新規取得講習会の申し込み情報は3月上旬より、更新講習会申し込み情報は7月上旬よりWebサイトに公開予定です。お見逃しのないようお願いいたします。

**Web化に関する問い合わせ** 山梨県サッカー協会 秋山 (TEL:055-220-3113 FAX:055-220-3116)  
(AM9:00 ~ PM17:00) 審判委員会 総務部 (TEL:080-5429-7154)

## 多くの審判員の御協力を！

競技部長 遠山 昭仁

競技部では、昨年度は4月～12月の9ヶ月間で日本協会・関東協会・山梨県協会主催の各種大会等へ約200試合476名の審判員を派遣いたしました。山梨県審判委員会だけのメンバーだけでは限界に来ているのが現状です。

近年の山梨県内で開催される大会は年々増加しています。競技部の対応として、2005年度からは、JFAメンバーシップ制度Web化の指導に伴い、山梨県審判委員会メンバーだけでなく日本協会登録審判員である山梨県内の2級・3級資格を保有している登録審判員の方々にも積極的に割当をお願いして行きたいと思っております。

対象審判員の方々には趣旨をご理解いただき、ご協力のほど宜しくお願いいたします。2005年度、皆様のご協力により各種大会の審判割当及び運営が無事終了しますようご協力をお願いするとともに一人でも多くの上級審判員へのチャレンジをして頂けます様、期待しております。

甲府工業高校/水 下 翼

私が3級合格を目指してトレセンに参加し、早くも9ヶ月が過ぎようとしていきます。このトレセンでは、4ヶ月が1クールとなっていて筆記試験や体力テスト及びその他の解説などでとても勉強になることばかりでした。4月に初めてトレセンに参加した時は、細かいルールや正しいポジショニングなど知らなかった事が沢山ありました。ルールブックから出題される筆記試験は自分の力ではほとんど解けず、ルールブックを見ながらでないと答えを書くことが出来ませんでした。

しかし、このトレセンで審判委員会の方々の指導やアドバイスを受け、一步一步確実に成長していると自分でも感じる事ができました。7月の筆記試験本番では、試験前にしっかりと復習していたため無事合格し、実技試験では自分が今まで学んだことを十分発揮でき、3級に合格する事ができました。

4月にルールテストもや実技も良くなかった私が3級の試験に合格する事ができたのは、いろいろな面で支えてくれた両親や審判をする機会を与えてくれた顧問の先生方、適切にアドバイスをして頂いた審判委員会の方々のおかげです。3級合格をひとつの通過点として、より高いレベルを目指し努力して行きたいと思います。

甲府工業高校/遠藤 哲夫

6月からトレセンに参加し、最初は何をしたら良いのか解りませんでした。しかし、トレセン関係の方々がお自身になって対応してくれて緊張せずにできて良かった。ルール問題では、自分が今まで知らなかった。ルールを知ることができ、自分自身でルールブックで勉強し、テストにも合格する事ができた。

審判委員会の方々がお教えてくれたいろいろな反則についての対応の仕方は、これからの審判をしていく上で役立てて行きたいと思います。私の目標は、レフリーとして上を目指すことなので、その目標に向かって日々努力をしたいと思います。

河口湖高校/天 野 裕太

今年の5月・8月～12月までの6ヶ月間、トレセンに参加して良かったことは沢山ありました。まず、最も良かったことは、月に数回審判をやっていて、疑問に思ったこと、困ったことをトレセンに参加して、審判委員会の方々に聞くことにより、次の審判のとき非常に役立ったことです。

また、質問をしていく中で『審判とはこういうもの』と言う、心得なども教えていただき、『ただ、反則があって、警告に値するからすぐカード』と言うだけでなく、選手にプレーをさせてあげると言うことを考え、上手くゲームコントロールをすることが大事であるなどと言うことを教えていただきました。難しいことでしたが、良い勉強になりました。

その他にも、ポジショニングなど、普段勉強をすることなかったことを話してくださったので、最近では、しっかりしたポジショニングが出来たような気がします。あと、ルールに関しての勉強は、だいたい解っているつもりでしたが、ルールブックに出てくる言葉をそのまま覚えたことはなかったなので、初めは出来ませんでした。筆記試験をすることで、だいたいの部分を覚える事が出来ました。

そして、最後に、体力試験、実技試験では、体力試験を受けることで、普段のトレーニングに力を入れ取り組むようになり、体力も少しずつ上がってきました。そして、実技試験を受けることによって、ルールブックをしっかりと読み、理解して、実際に他の人が審判をしている試合を見て、ジェスチャーなどを覚えて自分が実際に行う試合で応用したりする事が出来ました。

また、各試合後とに目標を設定して自分自身の課題をどんどん克服していけるようになりました。今まで、6ヶ月間のトレセンで勉強したこと、学んだことを活かして、来年は50m走及び実技試験をクリアし、3級を取得して、どんどん上を目指して行きたいと思います。

# 2級審判員に昇級して

望月 智和

日頃、審判委員会の皆様にはご指導いただき有り難うございます。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

私は小学生の頃からサッカーを楽しんでプレーしてきましたが、審判という存在をほとんど感じることはありませんでした。ましてや社会人でプレーをするようになってからは主審に意義や暴言を吐くような今思えばとんでもない競技者でした。そんな私が審判員になろうとしたきっかけは、ある試合の主審の経験があったからです。その頃は4級で知識も経験もまだほとんどない頃でした。社会人リーグの試合中、突然お互いの選手がにらみ合い乱闘寸前の場面になりました。私は警告も出さず前後半終了してしまいましたが、今思えばあの場面は警告を与えるべきだったと後悔しています。また、事前ににらみ合う行為を回避しもっと選手に対し気くばりをするように努力すればお互い後味の悪い試合にならなかったのではないかと思います。また別の試合では同じチームの選手に警告を6枚与えたこともありました。妥当かどうかはともかくとして、選手の気持ちを考えずに頭ごなしに警告を与え、試合終了後選手から「今日の審判最低だ」と言われた苦い経験もありました。

現在私は2級を取得し、県内色々な試合で経験を積ませていただいております。試合により状況は様々ですが、常に選手と共に楽しみ、審判が孤立することのないよう選手の気持ちや意図を考え、レフリングしていけるよう一層努力していきたいと思っております。また観戦する方や愛好する方々にも清々しく試合を観て楽しんでいただける様がんばっていかうと思っております。

河野 紳一（御坂中学校勤務）

早いもので2級に昇級させて頂いてから8ヶ月が過ぎようとしています。私は今まで本当に多くの方々に支えられて、審判活動を続けることができました。昨年からお世話になっている審判委員会の諸先輩方、審判法の指導をして下さったインストラクターの皆様、審判仲間、家族に支えられて活動できたことに心から感謝しています。

さて、私が審判活動を行うきっかけとなったのは、一緒に審判を組んだある大会で2級審判員の資格をもつ先輩と話をする中で「審判の醍醐味やおもしろさや苦しさ」等を聞いたことです。それから何度となく失敗を繰り返しながら現在に至っていますが、今でもその先輩から励まして頂いたり、アドバイスを頂きながら少しでも上達できればと思って頑張っているところです。私は仕事の関係上、普段は3種（中学生）の試合に携わることが多いのですが、2級になると、「笛を吹く」試合の幅が広がりました。社会人の大会や「関東」という名のつく大会に参加する機会も与えて頂きました。自分のカテゴリーから一步外へ出てみると、事前から必死に体を動かしてトレーニングをつんだり、きちんとした考えをもって審判活動をしている審判仲間と知り合うことができ大変勉強になりました。その中で思うことは、審判は権限と責任が大きいだけに、いい加減なことはできません。当たり前のことかもしれませんが常にベストの状態です。試合に臨むことが大切だと改めて考えるようになりました。また、決して審判がファンの話題中心の試合にならず、選手が安心してプレーできるレフェリングをすることをめざしていきたいと思っております。まだまだ努力しなければならぬことがたくさんある私ですが、これからも1試合1試合を大切に全力投球していきたいと思っております。

## 平成16年度 審判員昇級者（敬称略）

### 【2級】

\*望月智和      \*河野紳一      \*内藤共哉      \*伴野 覚      \*奥山美穂

### 【3級】

\*小林 卓朗      \*高山厚志      \*土橋 裕      \*高山 真由美      \*小林 弘  
\*野澤 昌彦      \*小林卓朗      \*水下 翼      \*市川和也      \*根津賢太郎

# 第35回全国中学校サッカー大会 審判研修会に参加して

内藤共哉（押原中学校勤務）

平成16年8月20日～24日の5日間の日程で、県内の5つの競技場を会場に、中学校部活動のNo.1を決定する全国大会が開催されました。この全国大会は、女子1級候補の実技2次試験となっていたため、全国から1次を通過された女子1級候補者7名と、関東8都県から各2名ずつの派遣審判員、さらに山梨県審判委員会からの協力をいただきながら大会が運営されました。山梨の中体連派遣として、河野氏と私の2名が審判員として参加することになりました。

振り返ってみると、平成16年4月、山梨県審判委員会の推薦をいただき、河野氏・望月氏とともに2級昇級試験を受験する機会が得られ、何とか合格することができました。2級審判員昇級後、初めて研修の場として与えられたのは、8月6日から行われた「関東中学校サッカー大会」でした。これまで県大会以上の公式大会に関わったことがなかったので、多少の不安はありましたが、大会に参加できることへの期待の方が大きかったように思います。2日間の参加の中で、主審と副審の割り当てをいただくことができました。この経験が10日後に行われた「全国中学校サッカー大会」への自信につながっていたように思います。

まず、全国大会の1回戦を翌日に控えた19日、開会式が行われている裏で参加審判員は、緑ヶ丘陸上競技場に集合し、体力測定（12分間走、50m走、200m走）を行いました。この日のために自分なりにトレーニングを行っていましたが、午後2時、気温35℃を越える猛暑の中で行われた体力測定は、正直本当にきつかったです。あらためて日頃のトレーニングの重要性を感じました。

大会では、5日間の日程の中で、1回戦の主審、2回戦・準決勝・決勝の副審、計4回の割り当てをいただくことができました。今でもやはり印象に残っているのは、同点延長、再延長の末、両校優勝となった決勝戦です。もともと、審判員資格を取得しようと考えたのは、一教員として、一サッカー部顧問として、できるだけ子どもたちとともにサッカーに関わりたいという思いからでした。ですから、中学校部活動のチャンピオンを決める決勝戦に、審判員として選手と同じピッチに立てたことは、本当にうれしかったです。さらに、日頃からご指導いただいている同じ中巨摩中体連の中込氏、野本氏、審判委員会の長田氏とチームを組めたこともとても貴重な経験でした。試合直前、審判団の先輩方から「楽しんでやろう」と声を掛けていただいたことで気持ちもリラックスでき、試合終了の笛が鳴るまで本当に気持ちよく、楽しんで審判をすることができました。

また、大会期間中、毎日夕食後に行われた研修会では、大会のインストラクターとしてお見えになった日本協会の河内氏、十河氏、林氏、関東審判委員会の石井委員長、山梨県審判委員会の内田委員長より、審判員としての心構えや、レフリングについての細かいご指導をいただきました。常に高いレベルの試合を見られているインストラクターの方々のお話は、まだまだ経験不足の自分にとってすべてが勉強でした。また、試合会場ごとのミーティングで出されたことを全体の場で共有し、全国各地から参加された審判員の方々と意見交換できたことは、本当に大きな財産となりました。関東、全国と大きな大会に関わらせて頂いたこの経験を、今後の審判活動に生かし、より高い審判技術習得に向け、尚一層精進していきたいと思えます。

終わりになりましたが、地元山梨での全国大会開催にあたり、貴重な場を与えていただいた山梨県中体連サッカー専門部、山梨県審判委員会の方々に心より感謝します。



左より内藤氏、笹本氏、長田氏、浅川氏